

地域と協同の

2017年7月25日発行

155号

研究センターNEWS

【巻頭言】

「エコファーマー制度」に新たな活力を！

中嶋好夫

私の住む大府市は知多半島の付け根にあり、戦前は根菜類をはじめとした畑作の盛んな地域であった。しかし残念ながら「知多の雨蛙」と揶揄された程「日照りが続くと収穫皆無」状態で、私財投げ出し2人の先人の心血を注いだ努力により愛知用水が知多半島の先端まで通水し、農・工・住と豊かな振興地域として、発展を続けている。

思えば戦後の食糧難からの脱出のためなりふり構わず増産政策に転換したところから日本農業がおかしくなり始めた。急激なケミカル、種子の交配、特に病虫害防除の農薬類、肥料も殆ど輸入品で、これ等が土壌を変化させ徐々に作物環境の障害要因と分かると共に、【食】への悪影響もあきらかとなった。

国はこれらを改善する諸施策の一つとして、平成11年〔持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律〕を施行し、各県は「環境と安全に配慮した農業の推進」要領を制定した。愛知県では、その主旨に賛同し、モデル性が期待される農業者を「エコファーマー」として認定する制度を平成12年1月に施行した。しかし、「地域の環境」「作物別の競合」「技術レベルの格差」「栽培・販売の方式」等々統一性の困難から、12年間で13回も要領を改正すると云う、まさに迷走状態であった。加えて信頼の象徴である「エコマーク」も、平成16年に始まったが、不正使用も指摘され、平成26年をもって10年間で使用を停止した。

折角生まれた制度が形骸化してしまった原因はどこにあるのか？指導機関の推進する情熱の欠如は否めないが、生産者の、この制度をどう自分達に有益なものとするという認識も不十分だったのではないか！増産の波の絶頂期は年齢、体力も絶頂期であったが、還暦を過ぎ、20キロ入りの玉ねぎの持ち運びは負担になり、作付面積を減らし、収入も減少した。そこで改めて考えるのが「エコファーマー制度」である。今まで培った技術にエコの技術を加え、新たに健全な植物環境を整備し、安全で安心な生産物の流通は消費者の声を真摯に聞き、【食】の協同を共に作り上げる。「信頼」と云う絆は、「エコマーク」に勝る価値がある。行政の強力な支援と共に「高齢エコファーマー」と、地域住民が気軽に参加出来る「消費者グループ」が、「エコ・笑顔」に満ちた協同の輪の広がりを見ず実現しなければならない。

(なかしま・よしお 地域と協同の研究センター 顧問)

CONTENTS

▶ 巻頭言 「エコファーマー制度」に新たな活力を！	1
▶ 岐阜地域懇談会世話人会活動…仕事工房ポポロ・中川さん訪問	2
▶ 三重地域懇談会活動…津市を拠点にフードバンク活動するお二人と懇談	3
▶ 研究フォーラム地域福祉を支える市民協同…報告集(論文集)の第2号発行	4
● 情報クリップ	5
■ 企画案内「平成29年度岐阜大学公開講座」	8
■ 書籍案内「シリーズ田園回帰6」	

地域と協同の研究センター 7月の活動

7月1日(土)	共同購入事業マイスターコース①
7月6日(木)	名市大寄付講義②
7月7日(金)	国際協同組合デー記念行事 in 愛知
7月8日(土)	理事会
7月13日(木)	名市大寄付講義③, 組合員理事セミナー⑥
7月18日(火)	研究フォーラム「食と農」世話人「いのこの樹」視察
7月20日(木)	名市大寄付講義④, 三重地域懇談会・世話人会
7月21日(金)	常任理事会
7月22日(土)	岐阜地域懇談会・プチフォーラム in 岐阜
7月24日(月)	NEWS 編集委
7月27日(木)	名市大寄付講義⑤, 協同の未来塾②
7月28日(金)	生協の(未来の)あり方研究会
7月29日(土)	共同購入事業マイスターコース②
7月31日(月)	尾張地域懇談会・世話人会

仕事工房ポポロ・中川さん訪問…岐阜地域懇談会世話人会活動…

その子 自身の価値を大切にしたい

「岐阜地域懇談会世話人会」では、さる5月15日、特定非営利活動法人 仕事工房ポポロ（岐阜県岐阜市以下、ポポロ）を訪問して、代表の中川健史（なかがわ・たけし=写真）さんから、お話をお聞きし懇談しました。

ポポロの活動の目的は…ニートやひきこもりなど生き方・働き方・人間関係に悩み社会への出口を模索する若者、様々な事情によって働く場所が狭められている子育て中の母親や高齢者などのために、自立・就労・仕事に関する事業を行い、そのために様々な分野の人々、地域との交流を進め、誰もが共に生き生きと幸せに生きていける社会づくりに資すること…、です。

ポポロの活動は…1) ひきこもりやニートの子ども・青年を支援するために、若者の交流と就労支援事業や研修事業、2) 彼らを抱える家族・親への支援として、家族が孤立することなく、気軽に集まり語り合える場、家族会の毎月開催、など。

◆中川さんのお話◆

子どもの貧困問題は親世代の収入がないことに起因すると考えています。ひきこもりの若者支援の対象30代、40代は、その子どもの親世代と重なります。同じ世代で、片方は結婚してくらしに困っている、片方は結婚できない。子どもの貧困、若者のひきこもりは僕の中ではつながっているのです。実際に関わっている中でのひきこもりの最高齢は52才。親が80才を越えると家族会にも出てこれなくなる。親の介護の問題も生じてきます。

働き盛りが働けない問題をもっと深刻に考えなければいけません。国の調査によると、ひきこもりは1%ちょっとと言われるが、藤里（ふじさと）町（秋田県）の調査では10%近くの人たちが働けないでいます。これは社会的な損失です。ひきこもりの彼らが活躍できる社会にならないと、これからの高齢化社会はもたないと考えます。

就労支援につきあっていると、彼らの持っている「価値」が見えてきます。今ある仕事に彼らをあてはめるのではなく、その子自身の「価値」を引き出せるような仕事づくりをしたい。逆転の発想で考えています。「ぎふハチドリ資金」からお金をもらって、ひきこもりの全国60人の子たちに絵手紙を送っています。一方通行のはがきです。絵手紙の作者は10代の頃不登校で摂食障害に苦しんだひきこもりの当事者です。20代に入ってアルバイトをしながら絵を描いています。いい絵だから商品にしました。1枚100円で売って50円を本人に渡せる仕組みを作りました。今年の正月30人を超える子たちから返事が届きました。ひきこもっている子たちにとっては外に

出て、ポストにいくまでが大変です。ガタガタ震えながらポストまで行って手紙を出してくれました。

シングルマザーだけではなく、両親が揃っていても子どもの貧困はあるのです。月14~15万円で働いていて、年収にしたら200万円、2人で400万円。片方が働けなくなると一気に困る。岐阜県の非正規のケースワーカーは手取り18万円くらい。正規職員の半分ほど。ケースワーカーも収入が少なく貧困状態とも言えると思いますが、貧困状態の人の相談にのっています。子どもが5人いたら生活保護費40万円を超えるのです。「自分より収入が多くて困っている人」の相談にのるといって、この状態はすごい矛盾だと思います。

生活保護費を削減しろとよくいわれますが、保護費は地域で使われ、消費の一番大切なところを支えているのです。金持ちは地域で消費はしません。福祉・社会保障費は地域で使われるのです。

◆期待すること…生協、他団体に◆

例えば自転車が欲しい、どこかにない？って、探すとしましょう。ポポロに直接かかわる人ではニューズレターの400人にしか聞けません。しかし、ネットワークでつながる団体、それらが100人とか150人とかの会員がいて、そこに広がっていくと1,000人近い人たちに自転車が欲しいという情報が伝わります。1,000人に伝われば自転車の1台や2台すぐに見つかるでしょう。生協がそのネットワークに加わってもらうとさらに広がりが大きくなるでしょう。

ひとりでやれること、団体だけでやれることは限られています。みんなの力は、ネットワークでどんどん広がります。広がらない原因は「自分達のやることが最高にいい、という思い込み」だと考えます。それぞれの団体にはそこしか持っていない値打ちがあります。そういうものを発見できる力が必要なのです。それぞれの強みを持つ団体が個性と知恵を寄せ合うことで、新しい価値が生み出せるはずで、それぞれの違いを排除するのではなく、違いそのものを価値として活かすことが大切だと思います。

中川さんの「ひきこもりをしている、その子自身の価値を大切にしたい」という言葉は、前回訪問した中津川市（岐阜県）の「ひなたぼっこ」代表の斎藤啓治（さいとう・けいじ）さんが言う「相手の声に耳を傾け、相手の立場にたち、相手の身になって行う仕事をめざしたい」という言葉と重なります。自分自身の人との関わり方について、考えさせられた中川さんのお話でした。

岐阜地域懇談会世話人・井貝順子（いはい・じゅんこ）



仕事先がなかなか見つからず、**食べる物も底をつき困っていた時に、たどり着きました。**

(文責：事務局 大島)

2017 年度三重地域懇談会では、2016 年度より引き続き「くらしやすい地域づくり」というテーマで調査や学習を行ってきています。6 月 22 日（木）に、津市を拠点にフードバンク活動をされている、フードバンク多文化みえ代表の中村博俊氏、多文化共生ネットワークエスペランサ代表の青木幸枝氏にお越しいただき生活困窮者を支える活動について世話人会でお話を聞かせていただきましたのでご紹介いたします。



青木幸枝氏 中村博俊氏

フードバンク多文化みえ代表 中村 博俊 氏のお話

中村氏がブラジル人学校の代表をされていた時、リーマンショックで職を失い生活困窮となったブラジル人を救うため、セカンドハーベスト名古屋から食材を提供してもらうようになり現在に至ります。届いた物資によって必要と思われる団体に声をかけて取りに来てもらっています。

2016 度は年間 40 団体に 313 回供給してきました。

セカンドハーベスト名古屋は、カネハツ、輸入業者、乾麺業者、東海コープなどから食材の提供を受けており、三重県内では、マックスバリュ（月 1 回）、伊賀の田中バナナから提供を受けています。時々和菓子の万寿や、辻製油からの提供もあります。三重県内の企業もセカンドハーベスト名古屋と契約しフードバンク多文化みえに提供してもらっています。

フードバンク多文化みえには、毎週木曜日にセカンドハーベスト名古屋から食材が届き、金曜日に登録団体が食材を取りにきてもらっています。当初は外国人を中心に支援してきましたが、最近は日本人も増えています。フードバンクを運営する上で困っている事は、物資を保管する倉庫の確保、必要な補助金の確保、燃料代、そしてマンパワーです。

フードバンク多文化みえは支援活動団体に食材をお渡ししており、個人対応はしていません。個人対応はエスペランサ等の支援活動団体が行っています。フードバンク多文化みえに助けを求めてきた方はエスペランサが引き継いで食材を届けています。

津市の敬和学区・育生学区の子ども食堂と関わっていますが、この食堂は、お米は J A、野菜や生鮮品は「ぎゅーとら」の支援を受けています。フードバンク多文化みえからはお菓子や持ち帰り品（スープなど）を届けています。手に入った食材で作らなければいけないため、運営は難しく、大人 300 円、子ども無料の制度が多いですが、大人 300 円を出せない家庭もあります。親が社会に溶け込みにくいと、子ども食堂にも参加してもらえないようです。子ども食堂に参加することで他者とのつながりができ生活にもひろがりが出てくるので、参加してほしいと思いますがハードルの高い家族は多いようです。

多文化共生ネットワークエスペランサ代表 青木 幸枝 氏のお話

エスペランサは千里ヶ丘小学校の教諭だった時、職員が中心となって立ち上げ外国人の子どもを支援する事を目的に始めました。

支援の内容は「食料配布、生活用品配布、情報提供、治療支援、関係機関への同行、相談」などで、2016 年度は 64 家庭 566 回の支援を行っています。

2009 年から支援を開始し 2013 年まで減少傾向だったが 2014 年から増加しており、エスペランサの認知度が向上しているとも考えられます。支援も、最初は外国人 100%でしたが徐々に日本人が増えてきています。ブラジル人はネットワークが出来ているので孤立しているケースは少ないようですが、日本人やフィリピン人の母子の場合、孤立している場合が多いようです。

行政には良い制度はありますが、条件が整わず申請できない場合が多く、また、後払いのため今払えるお金がなく利用できないといった制度が多いようです。三重県は福祉医療費の窓口無料化が実現されていないため、治療をあきらめる人も多くいます。三重県営住宅も保証人 2 人（内 1 人は日本人）といった条件が厳しいため入居できない外国人家庭も多く、また、市税滞納者は市営住宅への入居拒否の事例もあります。この様に支えたくても制度などが生活再建の壁となってしまっている場合も多くあります。これを解決するため、国や地方行政に対し、団体や議員の力を借りて制度の見直しを要請しています。

エスペランサから食材を届けるのは、津・鈴鹿が中心ですが、四日市、いなべ、東員、伊賀、松阪からの依頼も増えています。生活がギリギリになってから連絡をくれる事が多く、遠慮する方が多いようです。食べ物を渡して終わりではありません。食材のお届けを通して生活困窮者とのつながり、困っている事に親身になって相談にのり、生活の立て直しを一緒になって行っていく事が重要です。

研究フォーラム 地域福祉を支える市民協同

報告集（論文集）の第2号を発行しました

研究フォーラム「地域福祉を支える市民協同」に参加されている世話人の方を中心に8人の方から論文提供があり、発行することができました。研究フォーラムとしては2冊目となりました。

この間、研究フォーラムでは、主として瀬戸市（愛知県）での「窯のひろば」の実践に注目し、何回かの見学などを行いながら、長い時間をかけながらじっくりと市民協同の活動の一つの典型として学んできました。ただ「窯のひろば」の実践を担ってきたNPO法人「エム・トゥ・エム」から、新たにNPO法人「窯のひろば」が分離した形でそれぞれの活動がすすめられているという、現代進行形の変化があり、現時点での評価としては、主として②の小木曾論文や⑥の神田論文から学ぶことができます。

今回の報告集に掲載されているのは、下記の論文です。

【巻頭言】 地域と協同の研究センター代表理事 西川幸城

- ①「地域福祉を支える市民協同」その接近方法を考える 向井 忍（座長解題）
- ②地方分権化政策下における地域社会の市民協同とは 小木曾洋司（基調報告）
- ③市民協同、多様な実践の意味探しー「デュルケーム社会学」の視点からー仲田伸輝
- ④自分たちの手でささえあうまちを創る 清水孝子
- ⑤地区社協における、地域住民による企画提案型事業の推進について
ー各務原市社会福祉協議会と「ささえあいの家」に着目してー 椋木真佐子
- ⑥「さるなかとんな toto」におけるエム・トゥ・エムの取り組み
～「なんとかなるさとおもえる地域」を目指して 神田すみれ
- ⑦名張市「青蓮寺・百合ヶ丘地域づくり」の小規模多機能自治の取り組みについて 幸松孝太郎
- ⑧地域福祉における地域の主体について…二つの論文から 熊崎辰広

①は、座長解題として、これまでの研究フォーラムでの論議を踏まえながら、また掲載されている文章全体を見直しながら、あらためてその意味と内容を学ぶ上での視点がしめされ、今後の研究フォーラムの方向性の提案もあります。また②の小木曾論文では、社会的な視点からの分析と問題の有りようを学ぶことができます。まず①と②をひとつ座標として理解したうえで、③、④、⑤の実践的な報告を読んでみてください。

⑦の幸松論文では、まだ研究フォーラムとしては、新しい内容であり、これから深めていきたい課題の一つでもあります。また地域福祉を支える一つの主体でもある地区社協については⑤を、また地域福祉や日本の社会保障についての分析のひとつとして⑧を読んでいただければと思います。

研究フォーラムでは、今回の論文集を学ぶことのできる、報告集会の企画も検討しています。

また、今回の報告集（論文集）の発行に際しては、さらにNPOの役割や生協のたすけあい活動などについての実践的な内容の文章も加えながら、論文集として、より読みやすい形の、改訂版の発行も予定しています。

頒布価格200円としています。読んでみたいという方は、是非、研究センターまで申込みください。

お問い合わせ・お申し込み先／地域と協同の研究センター（担当：熊崎）
E-mail AEL03416@nifty.com Tel 052-781-8280 Fax 052-781-8315

研究フォーラム「地域福祉を支える市民協同」世話人 熊崎辰広（くまぎき・たつひろ）



情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半誌 定価(税別)
<p>▶誰もが働き続けられる生協の職場づくり</p> <hr/> <p>NAVI 2017.7 No. 784</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 誰もが働き続けられる生協の職場づくり <コープのある風景> コープみやざき <こんにちは！生協男子ですっ！> コープCS ネット 大野太一さん <地域に愛される店づくり・人づくり> コープさっぽろ 二十四軒店 <今月のコープで笑顔がキラリ> コープあおもり <エッセイ わな猟師の春夏秋冬> 千松信也 <宅配・現場レポート> ユーコープ <生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP 商品> CO・OP 九州産大麦若葉の粉末青汁 (6種の九州産野菜配合) <日本全国ふだんのくらしを支えたい> ならコープ <想いをかたちにコープ商品> CO・OP 骨取りさばの味噌煮・みぞれ煮 <つながろう CO・OP アクション情報> おどつつあんS、いわて生協 <明日のくらし ささえあう CO・OP 共済> こうち生協 <この人に聴きたい> マンガ家 しりあがり寿さん <ほっとnavi> 生協くまもと エフコープ</p>	<p>2017年 7月 A4版 36頁 360円</p>
<p>▶日本協同組合学会 第36回大会 シンポジウム</p> <hr/> <p>協同組合研究 2017.6 第37巻 第1号 (通巻100号)</p> <p>日本協同組合学会</p>	<p>特集1 日本協同組合学会 第36回シンポジウム これでもいいのか協同組合～その主体性を問う～</p> <p>座長解題 石田正昭</p> <p>第1報告 農協法改正が提起する課題と我が国の協同組合制度 —主体であるべき組合員側からの視点で— 明田 作</p> <p>第2報告 北海道における協同組合のレーズンデートル 正木 卓/高 恵探/坂下明彦</p> <p>第1コメント 農協改革下での農協本体事業の協同性を問う —JA 大会議案書および新潟県内の動きから— 伊藤亮司</p> <p>第2コメント 地域生協の現状と長期的視点からの課題 小方 泰</p> <p>大会シンポジウムの記録 石田正昭</p> <p>地域シンポジウム 北海道農業の形と農協の役割 ～J A改革の実践にむけて～ 小林国之</p> <p>特集2 『協同組合研究』100号記念企画 「協同組合研究の未来を紡ぐ」 座談会 (前半) 清水美紗/大高研道/久保ゆりえ/小山良太/成田拓未/走井洋一 書評 辻村英之著 『農業を買い支える仕組み—フェア・トレードと産消提携—』(三浦一浩) 林 薫平著 『生活協同と連帯経済』 (丸山茂樹) フランツ・ヴァンデルホフ著 北野収訳 『貧しい人々のマニフェスト—フェアトレードの思想』 (志波早苗)</p>	<p>2017年 6月 B5版 70頁 2,160円</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定価(税別)
<p>▶JA 自己改革の現場から</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2017.7 vol.749</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 スゴイ農業、スゴイJA JA自己改革の現場から</p> <p>① マーケットインで焼き芋に特化したカンショ産地づくり ーJAなめがたの取り組み 竹中明洋</p> <p>② アンテナショップを起点にマーケティング・サイクルを回す ーJA三次の取り組み 岩崎真之介</p> <p>農政トピック 協同組合の認知度向上について考える 協同組合間協同で学んで 見ればわかる広報を 阿高あや</p> <hr/> <p>きずな春秋 ー協同のこころー 童門冬二</p> <p>私のオピニオン 舞の海秀平 JAトップインタビュー 米の単作から、プラス園芸産地へ 吉田文彦 (新潟県JAにいがた南蒲 経営管理委員会会長)</p> <p>展望 JAの進むべき道 組合員とともに営農、暮らし、地域そして事業を創る ～創造的自己改革の背景と本質～ 大西茂志 (JA全中常務理事)</p> <p>海外だより [D.C.通信] 連載 74 チキンの値段から分かること 吉澤龍一郎</p> <p>第30回 広報活動優良JA紹介 総合の部 準大賞 JAくるめ (福岡県)</p>	<p>2017年 7月 A4版 48頁 年間予約 5,109円(送料・消費税込)</p>
<p>▶CSV (共有価値の創造)は有効な戦略となりえるか ー生協の今後の事業展開を考えるー</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2017.7 Vol.498</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 無形文化遺産に登録された「協同組合」と「ロバート・オウエンの手紙」 中川雄一郎</p> <p>▶特集 CSV (共有価値の創造)な有効な戦略となりえるか ー生協の今後の事業展開を考えるー</p> <p>CSVに基づく新たな企業間競争 岡田正大 CSVは企業が未来に生き残るための有効な戦略となりえるか 森 撰 CSV経営と働き方・働きがいとは 横田浩一</p> <p>地域テーマと物語で好循環するCSV ～つなぐ経営戦略、つながる経営の観点から～ 上木原弘修</p> <p>パートナーシップを通して地域の社会関係資本と共有価値を創造する 荻野亮吾</p> <p>社会を発展させる新しいビジネスモデルを生む、企業とNPOの共創の可能性 永井恒男・上野聡太</p> <p>コラム 生協におけるCSVの可能性 ～コープこうべの取り組み～ 中村由香</p> <p>■研究と調査 協同組合とユネスコの無形文化遺産 関英昭</p> <p>■時々再録 病院を撃つな! 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2017・5) 長谷川敏子・小形 巧</p> <p>■新刊紹介 藤森克彦著 『単身急増社会の希望 支え合う社会を構築するために』 三宅和央</p> <p>●第27回全国研究集会 地域における生協共済の役割とは何か</p> <p>●公開研究会 (東京9/12 京都10/18) スイスの二大生協の歴史と現況</p>	<p>2017年 7月 76頁 B5版</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定価(税別)
<p>▶農業競争力強化プログラム 関連法は何を狙うか</p>	<p>農協組合長 インタビュー (40) “御用聞き”を暮らしの活動として 川口義英 改正から見える今後の介護保険制度の方向 福地 宏 開業医と勤務医の情報交換会を行いました 馬場良和 院長リレーインタビュー (298) 市民とともに地域の医療を守っていきたい 藤原正博 二木教授の医療時評 (148) トランプ政権は2国間交渉で日本医療に何を求めてくるか? -TPP論争も踏まえての検討と予測 二木 立</p>	<p>2017年 7月 B5版 88頁 文化連報 編集部 03-3370-2529 *注</p>
<p>文化連情報 2017. 7 No. 472 日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>【新連載】農業競争力強化プログラム関連法は何を狙うか (1) 農業競争力強化支援法で農業所得は増大するか 田代洋一 介護保険法等の改正法が成立 石川 満 現代社会と協同組合 (4) オウエン、サン・シモン、フーリエの共同社会思想 北出俊昭 アメリカの医療制度 (10) 共和党の医療制度改革の展開 高山一夫 韓国農業の実相 -日本との比較を通じて (11) 日本の集落営農 品川 優 臨床倫理メディエーション (14) 情動・感情と意思決定 (2) 選択を決定する脳の情報処理過程 中西淑美 全国厚生連統一献立 山口=瓦そば、ちしゃなます 杉山正枝 【新連載】セントラルキッチンさくの取り組み (1) グローカルカフェやってます 内田健文 蓮見純平 地域住民が笑顔で病院に行く日-佐久総合病院 第71回 病院祭 小泉耀一 デンマーク&世界の地域居住 (98) オランダの革新17:住民のネットワークを広げること近所プロジェクト 松岡洋子 熱帯の自然誌 (16) 川こそ唯一の道 安間繁樹 イギリスの社会的企業 社会的家主:Gentoo (4) リビングウェイジとダイレクトペイメント 小磯 明 ●野の風● 人生のステージについて:終活に思うこと / 山崎きよ子 ◆第37回厚生連薬剤師研修会開催のお知らせ ◆平成29年度厚生連院内感染予防対策[基礎]研修会開催のお知らせ ◆メディエーター研修会開催のお知らせ ▶線路は続く (112) 絶景奏でる五能線 / 西出 健史 ▶最近見た映画 怪物はささやく / 菅原 育子</p>	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。



平成29年度 岐阜大学公開講座

地域科学部の授業 会場 岐阜大学地域科学部 101講義室

- 第1日目 10月14日(土) 13:00~16:30
 - ・言語学入門 牧 秀樹准教授(言語学)
 - ・第二言語習得論 笠井千勢准教授(言語学)
- 第2日目 10月21日(土) 13:00~16:30
 - ・情報捜査とやらせ 野原 仁教授(ジャーナリズム論)
 - ・原爆投下の世界史 加藤 公一講師(現代史)
- 第3日目 10月28日(土) 13:00~16:30
 - ・人口減少社会の暮らしと制度改革 西村 貢 教授(財政学)
 - ・交通と地域 應 江黔教授(交通科学)

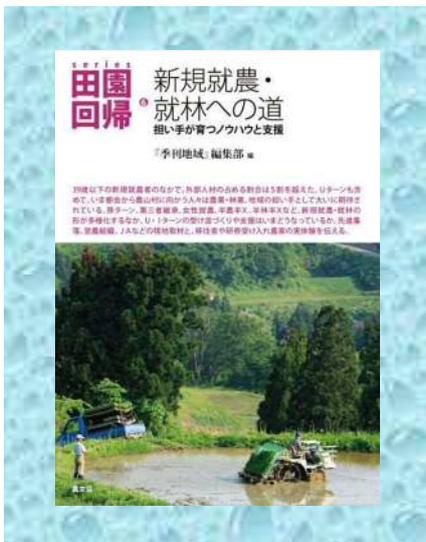
募集人員100名(先着順) 申込期限 9月29日(金) ・受講料無料

【申込み方法】住所、氏名、年齢、電話番号、車での来学の有無を明記のうえ

※郵送・持参・FAX・E-mail のいずれかの方法で申込み

【申込み先】〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学 地域科学部 総務係

TEL: 058-293-3003 FAX: 058-293-3008 E-mail: chiiki@gifu-u.ac.jp



シリーズ田園回帰6 世界の田園回帰 新規就農・就林への道 担い手が育つノウハウと支援

著者『季刊地域』編集部 編 定価2,376円(税込) 発行日: 2017/01 出版: 農山漁村文化協会(農文協) 判型/頁数A5 236ページ

【内容】

39歳以下の新規就農者のなかで、外部人材の占める割合は5割を超えた。Uターンも含めて、いま都会から農山村に向かう人々は農業・林業・地域の担い手としておおいに期待されている。それは田園回帰を定着させ、地域を安定的に存続させる道でもある。孫ターン、第三者経営継承、女性就農、半農半X、半林半Xなど新規就農・就林の形が多様化するなか、U・Iターンの受け皿づくりや支援はどうなっているか。全国の先進集落、営農組織、JAなどの現地取材と、移住者や研修受け入れ農家の実体験を伝える。

農山漁村文化協会ホームページより

2017年7月25日発行(毎月25日発行)
 定価200円
 (税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
 発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
 代表理事 西川 幸城
 〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39
 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
 E-mail AEL03416@nifty.com
 HP http://www.tiiki-kyodo.net/

研究センター 8月の活動予定

- 8月1日(火) 暮らしを語りあう会
- 8月2日(水) 三河地域懇談会・世話人会
- 8月3日(木) 研究フォーラム「環境」世話人会
- 8月4日(金) 生協の(未来の)あり方研究会討論①
- 8月5日(土) 生協の(未来の)あり方研究会討論②
- 8月7日(月) 愛知の協同組合間協同と記念行事相談会
- 8月22日(火) 研究フォーラム「食と農」世話人会
- 8月25日(金) 協同の未来塾③,
研究フォーラム「地域福祉」世話人会
- 8月26日(土) 生協の(未来の)あり方研究会
- 8月31日(木) 常任理事会